



芦屋ユネスコ協会

AU通信

ホームページアドレス
<http://www.unesco.or.jp/ashiya/>
 Eメールアドレス
 ashiya@unesco.or.jp

発行：芦屋ユネスコ協会
 会長 広瀬忠子

「戦争は心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」



広瀬会長 ご挨拶



式典前の参加者

8月15日「平和の鐘を鳴らそう」行事実施

68回目の終戦記念日に当たる8月15日、本年も芦屋市、芦屋市教育委員会の「平和と人権事業」と共催して「平和の鐘を鳴らそう」行事が盛大に実施されました。市民センター正面玄関横の「優愛の鐘」広場に山中市長、始め、会員及びその家族を中心に市民やお盆で帰郷のお孫さんも含め約150名の皆さんが集い、～平和の祈りと願い～を込めた行事を実施しました。廣瀬会長、山中市長の挨拶の後、ユネスコの「平和宣言」を一同高らかに唱和し、正午のサイレンとともに黙祷のあと、一人づつそれぞれの思いを込めて「優愛の鐘」を高らかに鳴らし、平和の誓いを新たにしました。

この後、場所を市民センター401号室に場所を移し、平和を願う懇親懇談会を実施しました。冒頭に山中市長から広島の平和記念式典への参加報告、喜多内長老自作の詩「生きたい」の朗読を頂き、会員有志に用意して頂いた戦時食の「ふかし芋やおにぎり」そして「すいとん」を食しながら当時を偲びました。芦屋ユネスコ協会・山田事務局長から「ユネスコ活動とは…」と題してビデオの放映と芦屋ユネスコ協会の活動について報告があり、今後のユネスコ活動と市民の皆さんの理解と支援協力の要請がありました。次いで、廣瀬 忠子 芦屋ユネスコ協会会長の戦中戦後のお話と、廣瀬会長の司会で参加された数の方々から当時の体験談やこれからへの希望を語って頂き、戦争の悲惨さと、平和がどれだけ大切なことを、色々と語って頂き参加者全員が感銘を受けました。また、子供代表からからの決意も発表して貰い、最後は本行事の記念イベントとして声楽家・加藤純子さんによるみんなで「平和の歌を唄いましょう！」の披露と歌唱指導があり、「花」・「さとうきび畑」・「川の流れのように」をピアノ(金沢佳代子さん)と手話のボランティアの方のご協力を頂きながらで全員で合唱し、大いにこの集いを盛り上げて貰いました。



山中市長



喜多内 十三造氏

ユネスコは「平和の志」を掲げ、二度と戦争を起こしてはならない！「世界の平和と人類の福祉に貢献する」ことが活動の原点です。この心をつなげて行くためにも、芦屋ユネスコ協会の「平和の鐘を鳴らそう」行事は、12年間途切れることなく継続実施されており市民の皆さんに定着されてきておりますとともに、マスコミにもこの芦屋の行事は毎年注目されております。本年も、NHKでは前日に予告をして貰い、当日の夕刻には行事内容が放映されましたし、翌日の新聞(毎日、読売、産経、神戸各紙)にも大きく報道して貰いました。尚本年も、芦屋市並びに芦屋市教育委員会との共催で実施され意義ある行事になりました。今年も参加されました皆さんと、お手伝いに汗を流して頂いた会員の方々と、そして全面的にサポートして頂いた教育委員会の皆さん・公民館皆さんに感謝し、厚くお礼を申し上げ報告とさせて頂きます。

(文責:山田事務局長)



終戦時の体験談を…



現在アメリカ留学中の高校生



おじいちゃんと参加しました



声楽家 加藤様 手話を交えて…

鐘は阪神大震災翌年の1996年、芦屋市婦人会が震災犠牲者の鎮魂のために設置し、以後、芦屋市ユネスコ協会などが1月17日と終戦記念日に鳴らしている。この日は正午のサイレンの音に合わせて黙とした後、1人が「つる童を鳴らす」と。

平和祈り

芦屋・150人が優愛の鐘

「戦争はたくさん的人生を奪った」と語った。



平和を願いながら鐘を鳴らす女性
—芦屋市の市民センター7

2013年(平成25年)8月16日(金曜日)

讀書實業卷

終戦記念日の15日、阪神間でも各地で追悼行事があり、芦屋市業平町の市民センターでは、阪神大震災の被災者を弔う「優愛の鐘」を市民約100人が鳴らして平和を願った。

市や芦屋ユネスコ協会の主催で、広瀬忠子・同協会長(86)が「天災と違い、戦争は人の心から起きるため防ぐことができる」とあい

さつ。参加者は默とうした後、順番に鐘のひもを引き、「カーン」と澄んだ音を響かせた。

戦時中の食糧難の時に食べられた、ふかし芋やすいとんの試食会も開かれ、戦争の体験談に耳を傾けながら、68年前の終戦に思いをはせていた。

同市春日町、由里正雄さん(83)は、3人の孫娘を誘

は防げる「心澄ませ
終戦68年、各地で追悼行事

心澄ませで追悼行事

減り、芋のつるがごちそうだった」と振り返り、「孫たちに戦争がいかに悲惨かを知り、平和を守る大切さを感じてほしい」と話した。

孫の市立山手小6年の和葉さん(11)は「おじいちゃんから戦争の話を聞くと、大変だったことが分かる。これからしつかりと勉強しない」と力を込めた。

つて参加。終戦時は中学生で軍事工場の勤労奉仕に駆り出されたといい、「空襲から逃げ、疎開を繰り返した。配給は少なく、いつも腹が

優愛の鐘を鳴らして平和を願う市民ら（葛屋中学校前）



終戦68年、各地で行事

芦屋で戦時中の食事体験

西宮では遺族ら追悼式

終戦の日の15日、阪神間各地でも、戦没者に黙とうをささげ、平和を祈る行事が開かれた。

芦屋市業平町の市民センターでは、市や芦屋ユネスコ協会が、平和を祈る催しを開いた。「優愛の鐘」前で市民約150人が平和宣言を唱和し、正午のサイレンとともに黙とう。統いて一人一人が鐘を鳴らした。

芦屋市業平町の市民センターでは、市や芦屋ユネスコ協会が、平和を祈る催しを開いた。「優愛の鐘」前で市民約150人が平和宣言を唱和し、正午のサイレンとともに黙とう。統いて一人一人が鐘を鳴らした。

市民が体験談を語った。
島八重子さん(81)「芦屋市春日町」は「今の若い人たちには戦争で悲しい目に遭つてほしくない」と語り、2歳の孫と訪れた河原寿賀子さん(67)「同市親王塚町」は「これから大きくなる孫たちは平和な世の中で過ごしてもらいたい」と話した。

西宮市の戦没者追悼式で、遺族会会長の野条昭男(左)と松本大輔(右)、斎藤絵美(右)が、過去の悲惨な歴史を繰り返さないよう、未来を担う子どもに伝え続けた。

西宮市名塩さん(81)「西宮市名塩」は年齢の離れた兄2人を戦地で亡くした。「私は戦地で亡くした。『私は年老いても、兄の面影は若いときのまま。兄への思い、戦争を起こしてはならない』という気持ちで、何年たっても変わらない」と話した。(松本大輔、斎藤絵美)

戦没者に思いをはせ、手を合わせる遺族ら=西宮市奥畠



平成25年(2013年)8月16日 金曜日

新 戸 星 開

鐘鳴らし平和を祈る

芦屋で市民ら100人追悼行事

芦屋市業平町の市民センターでは、市と芦屋ユネスコ協会が主催する平和を祈る催しが行われ、市民ら約100人が平成7年の阪神大震災の犠牲者の鎮魂の大鐘」を鳴らし、戦没者の冥福を祈った。

同協会の広瀬忠子会長(86)は「戦争は人の心の中から起るもので、防ぐこ

とができる。戦争を起こしてはならないとの思いを新たにし、平和の大切さを訴えていきましょう」と呼びかけた。

祖父母宅に帰省中で家族で参列した津市の中学2年、鶴岡凜さん(14)は「多くの人の犠牲の上に今の平和があると思う。平和のありがたさを改めて考えたい」と手を合わせていた。

平和を祈り「優愛の鐘」を鳴らす参列者 芦屋市業平町



生きたい

きたうち・とみぞう 詩

わたしは両手で物が掴める
わたしは両足で立って歩ける
わたしは蝉の鳴き声も電車の踏切のアラームも聞くことができる
わたしは話せる
わたしは笑える
わたしは泣くことも大声を出すこともできる

-----人が言った
両手のある人間はその片方を他人のために使えと

わたしはこの命を賜りものだと思っている
わたしはこの身を幸せ者だと感じている
晴れた日の天を見上げると独りでに喜びが沸いて来る
わたしは求めるよりも与える生き方の方がずっと好きだ
わたしは強い言葉より優しい言葉に涙が溢れる

-----人が言った
人間は体だけで生きているのじやない
熱い思い出を杖にしているのだ

わたしはゆっくりゆっくり生きたいと願う
踏ん張らずにあるがままに生きたいと

-----わたしの思い出は
この命を 生きているこの命を 大切に大切に生きていきたい
ただそれだけだ

(喜多内 十三造氏 芦屋市在住・詩人
8/15 平和の鐘を鳴らそう行事に特別参加自作 「生きたい」を朗読)

第69回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京 開催される

9月14（土）～15日（日）めぐろパーシモンホール（大ホール）で東日本大震災から2年半が過ぎて「ユネスコ活動が発信する未来向けたメッセージ」をメインテーマに盛大に開催された。東日本大震災から2年半が経過したが、被災地はいまだに復興の途上にある。また、大震災の衝撃や記憶の風化が懸念される今日、大震災をきっかけとして市民の考え方や生活のあり方にもさまざまな変化をきたしている。そのような中、私たちは、今こそ、教育や文化の力による社会的課題への取り組みを考えてゆかなければならぬ。被災した子どもたちをはじめ、次世代を担う若者たちが皆将来に夢を持ち自分の可能性を信じて学び行動することが出来る社会作りのために、東日本大震災の経験から今後、ユネスコ活動に何が出来るかを考える大会となった。

基調講話は、松田昌士 日本ユネスコ協会連盟会長の「次世代に引き継ぐ魅力あるユネスコ活動の展開にむけて」についてのお話と、千玄室 UNESCO親善大使からは特別講演として「私たちが次世代につなげ、残すべきこと」と題して貴重なお話を拝聴した。その他、「震災支援からの学びを明日につなげるために」のパネルディスカッションでは官・民・産・学、それぞれの立場の方から震災から何を学び、今後にどのようにつなげていくべきかを参加者とともに考える場も持たれた。その他、事例発表などがあり、レセプション・交流会では出席者や所属する各協会の情報交換で盛り上がりを見せた。

今だからこそ、地域から世界へ向けて平和の文化を築く決意を新たにすると共に、ユネスコ活動で何が、どこまで出来るかを考え、そしてユネスコの使命を再確認できた意義ある大会となった。

芦屋ユネスコ協会からは、森副会長・由里副会長・塩井副会長・塩井（君）事務局次長・永井常任理事・徳矢常任理事・藤井理事・八木理事・青木理事の9名が代表として出席した。

なお、2日目の15日（日）の会議冒頭に全国大会10回出席者20名の表彰式があり、芦屋ユネスコ協会の森隆資副会長が表彰を受けました。



第34回 阪神間ユネスコ協会連絡会 合同事業 開催される

恒例の、阪神間ユネスコ協会連絡会 合同事業が芦屋・尼崎・伊丹・神戸・三田・宝塚・西宮・川西の8ユネスコ協会主催で盛大に開催された。本年の開催担当協会は、川西ユネスコ協会で10月12日（土）みつかホール（文化ホール）で実施された。

実施内容は、薬師寺 村上 太胤 副住職の講演会で「日本人の心の復興」について私達の胸が熱くなる言葉でお話を頂いた。東日本大震災で津波に襲われた方々を慰問するために、現地へ毎月訪問されておられ被災地の方にためにお力を注いでいらっしゃる様子や、日々の生活の中で感じておられることを切々とお話を頂き大いに感銘を受けた。ユネスコのこれから地域の平和、世界の平和を考える上でとても重要な課題を再考する良い機会になった合同事業であった。

この合同事業はユネスコ活動の促進と、広く市民へのユネスコ活動に対する理解を深めて貰うと共に各ユネスコ協会会員及び市民相互の交流と連携を図るため、毎年8ユネスコ協会持ち回りでこの合同事業が実施されている。来年度は、神戸ユネスコ協会の担当で開催されることになっている。

芦屋ユネスコ協会からは、役員・会員11名が参加し、合同事業を盛り上げた。

未来遺産運動推進委員会 報告2

委員会は、市民が選んだ応募遺産（約1900）を一次的に類型化（6分野）しました。現在、その見直しを含めて増補・解説版の作成を検討中です。

今回は、継承すべき「芦屋の未来遺産」に関して、一つの例を述べてみます。

市制70周年記念誌「芦屋文化の100年リレー」の「民話と歌物語」のジャンルに、「鶴（ぬえ）塚」が選ばれています。芦屋の歴史・伝説においても、高順位の紹介があり、今年の芦屋能・狂言鑑賞の会（第17回）では、演目「舞囃子「鶴（ぬえ）」」が取り上げられています。

「鶴塚碑」は、阪神芦屋駅から芦屋川に沿って南へ10分ほど歩いた松林、テニスコートの北側、芦屋公園の駐在所のそばにあります。そこにあるのはなぜでしょうか？

平安後期（12世紀の半ば）、天皇の住む京都御所・清涼殿では、寂しげで不気味な怪鳥の鳴き声が不吉なものに聞こえていました。帝（76代近衛天皇）は、出没する怪物に悩まされ、募る恐怖心から、騒がせている怪物の退治を命じました。

源頼政（当時40代後半の弓の達人）は、化生のものとの対決として、源頼光より受け継いだ弓を手にして、退治に出向って矢を射り、見事に射落しました。

よく見ると、「頭がサル、身体はタヌキ、尾はヘビ、手足はトラ」という妖怪でした。

「鶴（ぬえ）」とは、怪物の名前で、トラツグミとするのが定説とされています。

鶴の屍骨（死体）を丸木舟（ウツボ舟）に押入れて乗せ、鴨川に流したといいます。

淀川から大阪湾、そして芦屋の浮洲「蘆屋の里」に流れ着いたのです。芦屋村の心の優しい多くの人たち（たたりが怖く恐れたのかも知れませんが）ねんごろに「塚」をつくって丁寧に弔いました。これが「鶴（ぬえ）塚」です。付近に掛かっている「鶴塚橋」の名もこの塚に由来するものです。

一方、熊野詣からの帰途中の旅の僧侶が、「蘆屋の里」（芦屋川と住吉川の間の浜）で、ウツボ舟とともに漂う不審な人物に遭遇します。それはかって命を失った「鶴の亡靈」でした。「鶴の亡靈」は、当時の源頼政が「兵庫の頭」だったこと、怪物退治で三位に叙せられ、帝より御剣を賜ったことなどを語り、僧に回向を頼みました。亡靈は、旅の僧の弔いを受けた後に、ふたたび櫂をとって闇の海へと乗り出し、海中に消えていきました。

因みに、「鶴退治の像」は、源頼政の所領地である西脇市の寺の境内にあります。

「得体の知れない人物」を指して、「鶴みたいな奴」という場合があります。鶴的な存在とは、正体不明の人物やあいまいな態度に使われる言葉の表現です。 一つづく一

（文責・副委員長 上野義治）



芦屋 鶴塚

芦屋ユネスコ協会

年末講演会＆親睦会のご案内

早いもので今年もいよいよ年末が近づいて参りました。皆様には如何がお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。

今年度も恒例の芦屋ユネスコ協会の「年末講演会＆親睦会」を下記要領にて開催いたします。どうぞ奮ってご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

日 時 : **2013年12月17日(火) 18:00~20:30(受付: 17:30~)**

◎今からご予定をお願いします。

場 所 : **ホテル竹園 3階**

内 容 : 講演会・・・外務省特命全権大使（関西担当）政府代表

食事会・・・フリードリンク

ビンゴ・・・景品多数

エンターテーメント・・・乞うご期待

会 費 : 6,000円（学生3,000円）一ビンゴ券1枚付：当日受付にて

会員はもとより非会員のご家族やご親戚、ご友人、お知り合いの方など多数お誘い合わせの上 お申込み下さい。

出欠届 : 往復ハガキをお出ししますので出席・欠席にかかわらず必ず返信して下さい。お問い合わせ等は下記までお願いします。

事務局 本荘 美恵 電話・FAX（0797）32-7910

締切日 : 2013年11月25日（月）※締切日厳守下さい。

（早めに返事をして頂きますようお願い致します。）

お願ひ①ビンゴの景品提供にご協力をお願い致します。家に眠っているもの（新しいもの）

をお持ち下さい。当日受付にてお手渡しくだされば助かります。よろしく。

②書き損じハガキがありましたらご持参下さい。

新入会員紹介

ご入会有難うございました。

(1) 加納 代利子 様

(2) 山本 慶子 様

(3) 河原 千賀子 様

(4) 徳島 八重子 様

(5) 斧原 秀夫 様

編集後記

1

酷暑の夏もやっと過ぎ、涼しい風が感じられるようになりました。

富士山も世界遺産に登録されました。何年か後にもう一度富士登山に挑戦しようかな？7年後にはオリンピックが東京にやってきます。楽しみですね。その時は元気で観戦したいですね。今から楽しみがいっぱいです。

早いものでもう年末のお知らせです。お友達とお誘いあわせの上多数のご参加をお待ちしております。

本荘 美恵